

特定非営利法人 中越防災フロンティアの使命

山古志地区をはじめとした中越地域の中山間地域の資源を活用した
これまでにない創造型の復興プロジェクトをみなさんとともに立案、推進します。

2004年10月23日に発生した中越地震は、中越の広範な地域に未曾有の被害をもたらしました。復旧・復興は徐々に進んでいるものの、これから取り組まなくてはならない課題もたくさん残されています。

日本の国土の約7割は中山間地域が占めていることから、「中越地域の復興」は、同時に、「中山間地域の災害復興をいかに成功させるか」と同じ意味合いを持っています。それだけに、中越地域の復興は、日本の国づくりのあり方が問われているといっても過言ではありません。

「中越防災フロンティア」の活動では、地域の物理的な再生・再建とは異なる視点で、地域のみなさんが将来に希望を持てる、新たな地域づくりの方向性や計画を希求していきます。豊かな自然と資源に恵まれた中山間地域に人々の暮らしから無理なく広がる、復興プロジェクトを地域のみなさんとともに立案、推進します。まさしく、復興について前例のないフロンティアに挑むことが「中越防災フロンティア」の使命です。

役員

役名	氏名	
理事長	丸井英明	新潟大学災害復興科学センター教授
副理事長	丸山結香	(有)MAX・ZEN performance consultants 代表取締役
理事	伊藤忠雄	新潟大学農学部農業生産科学科教授
	稲垣文彦	中越復興市民会議事務局長
	江村隆三	元新潟経済同友会筆頭代表幹事
	大川秀雄	新潟大学工学部教授
	上村靖司	長岡技術科学大学機械系准教授
	澤田雅浩	長岡造形大学建築・環境デザイン学科准教授
	高野裕	(株)パートナーズプロジェクト代表取締役
	西澤輝泰	新潟大学名誉教授
	原敏明	事業創造大学院大学副学長
	樋口榮治	長岡商工会議所専務理事
	平井邦彦	長岡造形大学建築・環境デザイン学科教授
	深澤大輔	新潟工科大学建築学科教授
	福田伸宏	(社)北陸建設弘済会 NPO 研究委員会委員
	松本昌二	長岡技術科学大学環境・建設系教授
宮寄光弘	(社)北陸建設弘済会 NPO 研究委員会委員	
丸山暉彦	長岡技術科学大学環境・建設系教授	
大林厚次	(社)北陸建設弘済会理事長	
顧問	伊藤和明	NPO 法人防災情報機構会長
	木村拓郎	(株)社会安全研究所所長

入会のご案内

被災経験を新たな発想で復興に活かす活動に参加してみませんか？

「特定非営利活動法人 中越防災フロンティア」の活動、運営を支えていただける正会員／個人賛助会員／団体賛助会員の各会員を募集しています。

参加資格

災害復興と地域づくりの活動に関心のある18歳以上の方で、中越防災フロンティアの趣旨にご賛同いただける方であれば、どなたでもご入会いただけます。詳しくは中越防災フロンティアまでお問い合わせください。

特定非営利法人 中越防災フロンティア

〒940-0861 新潟県長岡市川崎町 2249 番地 1 ■ TEL&FAX 0258-31-8110 ■ <http://c-bosai-frontier.jp/>



特定非営利活動法人
中越防災フロンティア

中越防災フロンティアの三つの柱

新潟県中越地震の被災体験を活かして、中越地域の防災学習や災害研究の拠点エリアとして情報発信を行うとともに、山古志地区などの中山間地の資源を活用して新しい発想による地域づくりを進め、新たな産業の創出や交流の拡大をめざします。過去の地域の姿にとらわれない発想で、被災前よりも活力と魅力、そして希望のもてる中山間地域のモデルエリアを形成します。



クローバーバス

概要

平成 19 年 12 月に路線バスが廃止された山古志・太田両地区。震災直後に「山古志復興新ビジョン」の策定にかかわった(社)北陸建設弘済会は、平成 20 年 4 月から両地区の公共交通について学識経験者らと共同研究を開始し、その研究をもとに提案したのが地域の全世帯が参加する「クローバーバス」の運行でした。中越防災フロンティアは、その提案に賛同し、最大 5 年の期間限定で運営主体となり、クローバーバスの運行を開始しました。

<http://bus.c-bosai-frontier.jp/>

クローバーバスの特徴

- 期間限定で NPO 法人中越防災フロンティアが運営
- 地域内の全世帯が NPO 会員
- 運営に地域特性と自由な発想を取り入れるため運賃は無料
- 地域の資源・拠点施設を活用

NPO 法人中越防災フロンティアの役割

- 安定的なクローバーバスの運行
- 地域に適合した運行形態・運行計画の模索
- バス運営を引き継ぐための住民組織の基盤づくり
- バスを核とした事業展開による運行資金の確保
- 全員参加型 NPO であることを活かした地域活性化事業の展開



被災地視察会

概要

中越防災フロンティアでは、「地域の防災力、個人の防災力」を高めるために中越地震の被災経験、災害や防災に関する知恵や情報を伝えるための「中越地震・被災地視察会」をコーディネートしています。行政・企業・団体内の職員、研究生の皆様の中越地震被災地の復旧の現場、復興の様子を体感させたい、子供たちに被災地の復旧現場を体感させたいといったご要望をサポートしています。

案内実績

- 平成 18 年度「662 名 / 18 団体」
- 平成 19 年度「387 名 / 15 団体」
- 平成 20 年度「450 名 / 14 団体」

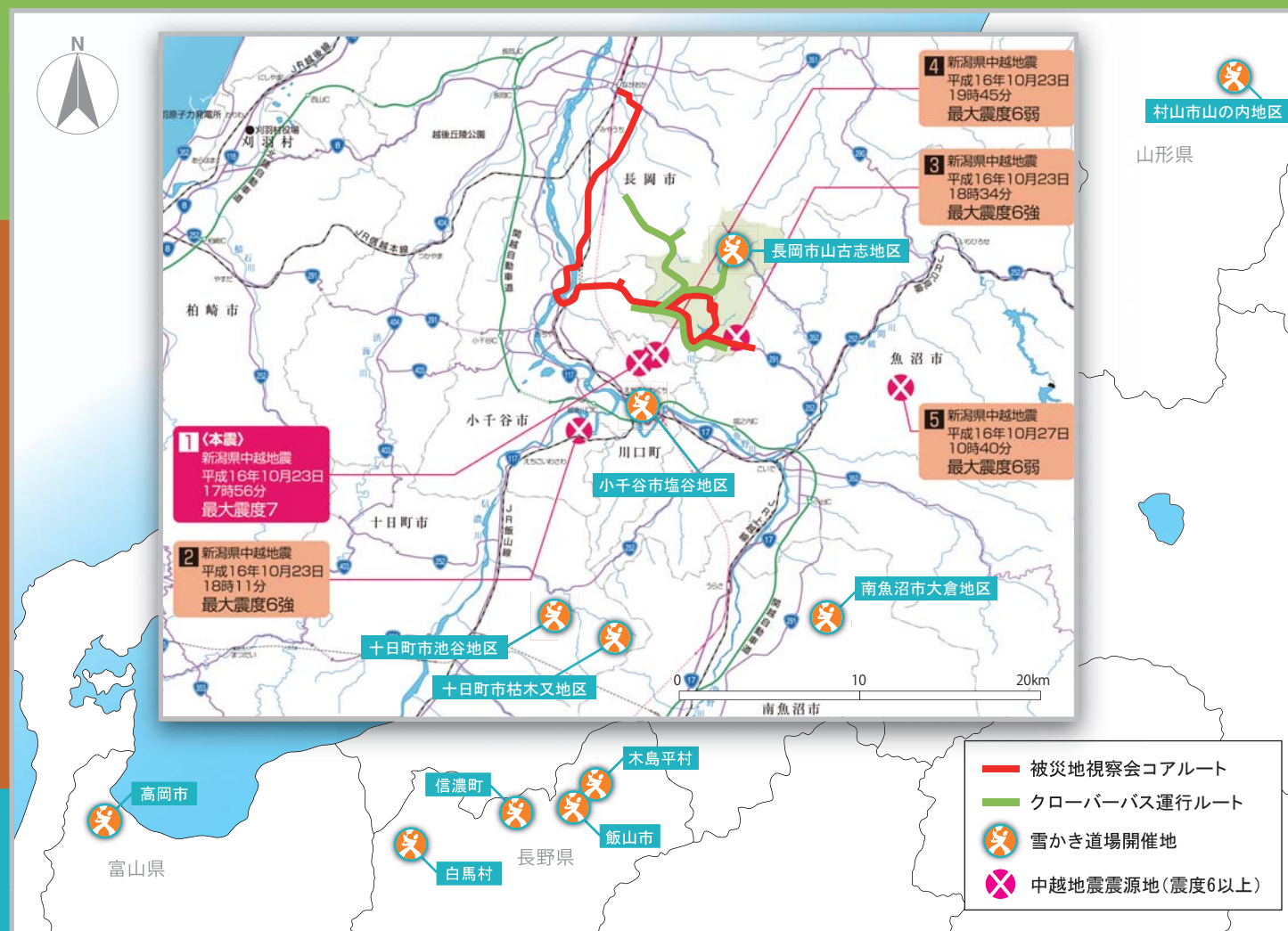


越後雪かき道場®

概要

少子・高齢化が進む豪雪地帯の中山間地域では、屋根雪処理の担い手が不足し、これまでのように地域内だけで除排雪を行うことが難しく、広域的な支援が必要となってきています。しかし、ボランティアは雪かき経験を積んでいる方は少なく、受入れ側もボランティアの方にどうやって協力してもらうか不慣れです。「越後雪かき道場」は、除雪ボランティアに対して知識習得、研修の場や受け入れ訓練の場を提供するとともに、継続的な都会との交流の場となるよう取り組みを進めています。「豪雪地帯における雪国の安心安全に関する調査」(平成 18 年度国土施策創発調査事業)、「越後雪かき道場」による安心安全で元気の雪国づくりの実践(平成 19 年度全国都市再生モデル調査)に選定されました。

<http://dojo.snow-rescue.net/> <http://blog.snow-rescue.net/>



段級位制

● 初級コース

雪かきの基礎を学びます。「雪かき道 < 越後流 > 指南書」に基づく一時間の講義と五時間の実習を受講します。カンジキの履き方、スコップやスノーダンプの使い方を修得します。「雪かき体操」や「ユキカキカルタ」などによるレクリエーションも取り込み、雪に親しんでもらうことを目的としています。

● 中級コース

初級コースを修了した方を対象に、主に屋根雪除雪に関する技術を学びます。二時間の安全講習と六時間の実地講習を受講します。安全にハシゴをかけることから始めて、屋根の雪を安全に効率的に除雪する方法を学びます。また、雪樋(トヨ)や命綱の使い方の講習も実践しています。

● 上級コース

効率よく広範囲に大量の雪処理ができるよう、小形除雪機械とホイールローダ(3t未満)の操作技術を学びます。これは労働安全衛生法(第59条)にもとづく「小型車両系建設機械(整地・運搬等)の運転」の特別教育(実技含む13時間)を含みますので、この受講により修了証が授与されます。